

第7回風工学シンポジウム（構造物の耐風性に関するシンポジウム）開催案内

〔共催〕 日本学術会議構造研究連絡委員会耐風構造分科会、土木学会、日本気象学会、日本建築学会、日本風工学会、日本鋼構造協会、電気学会（幹事学会）

「第7回風工学シンポジウム（構造物の耐風性に関するシンポジウム）」を関連学協会共催のもとに開催し、国内の研究者ならびに技術者の研鑽と交流および研究情報交換と併せて相互の親睦をはかることとなりました。つきましては会員各位には下記要領によりふるってご参加下さるようご案内致します。

開催期日 昭和57年12月9日（木）、10日（金）の2日間
会場 気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4、電話 03-212-8341、地下鉄東西線 竹橋下車徒歩3分）

参加費 4,500円（論文集代を含む）

定員 300名

参加申込み要領

- (1) 申込み方法：右記参加申込み書式を参考に必要事項を明記し参加費を添えて下記までお申し込みください。
 なお、参加券は論文集に同封し11月中旬に送付します。
- (2) 申込み期限：昭和57年10月29日（金）
- (3) 申込み先：〒100 東京都千代田区有楽町1-12-1 電気学会「第7回風工学シンポジウム」係 電話 03-201-0983
- (4) その他
 - (a) シンポジウム論文集は11月上旬に刊行の予定です。
 - (b) 原則として参加申込みの取消しがありましても参加費の払い戻しはいたしませんのでご了承ください。
 - (c) 締切期日前でも定員になり次第、申込みを締切りますのでなるべく早目にお申し込みください。

懇親会

下記により懇親会を開催致しますので、参加ご希望の方はシンポジウム参加申込み時にお申し込みください。

- (a) 日時：昭和57年12月9日（木）（第1日目シンポジウム終了直後）
- (b) 会場：気象庁（予定）

(c) 会費：3,000円

なお、会費は当日会場受付にてお支払い下さい。

第7回風工学シンポジウム参加申込書式

所属学協会名		氏名	
勤務先・職名		TEL.	
論文集送付先	〒	TEL.	
懇親会 (○で囲む)	参	加	不参加

プログラム

第1日 12月9日

9:00～9:10 開会の辞 第7回風工学シンポジウム運営委員会 委員長 堀 貞治
 9:10～10:35 司会 塩谷正雄（日本大学）

(a) 自然風の性質

- (1) 自然風と扇風機風との比較実験
 ○中川武夫、今井 悟、元川浩和（金沢工大）
- (2) 強風時平均流方向変動風速の水平横方向の空間構造に関する考察
 ○前田潤滋（九州大）、足立一雄（日本鉄塔）、牧野 稔（九州大）
- (3) 強風時の境界層の構造について
 ○花房龍男、藤谷徳之助（気象研究所）
- (4) 台風81' 15号の乱流特性について
 甲斐憲次（筑波大）
- (5) 風向を考慮した風速統計に関する研究
 藤野陽三、伊藤 学（東大）、田村敬一（土木研究所）

10:35～10:45 休憩

10:45～11:55 司会 秋山 宏（東京大学）

(a) 自然風の性質、(g) 強風災害

- (6) 接地境界層中の突風前線について
 石崎潑雄、光田 寧、○林 泰一（京大）
- (7) 山岳地における風の乱れの空間分布について
 光田 寧、○塚本 修、根井 充（京大）
- (8) 自動車の強風事故について
 相馬清二（成蹊大）
- (9) 強風の人体に対する力学的影響に関する研究
 ——強風下における高所作業の安全限界を中心として——

○村上周三, 出口清孝, 高橋岳生 (東大)

11:55~12:55 休憩・昼食

12:55~14:20 司会 丸田栄蔵 (日本大学)

(C) 風圧および空気力

- (1) 乱気流境界層中の3次元角柱に作用する風圧力について

河井宏允 (東京電機大)

- (2) 一様流中にある断面比 0.4~1.5 角柱まわりの剝離流れと流体力の変化について

○溝田武人, 岡島 厚 (九州大)

- (3) 角柱側面に加わる非定常な風圧力

石崎潑雄, ○谷池義人 (京成大)

- (4) 直方体の空力特性に及ぼす乱れの強さ及びスケールの影響

中村泰治, ○大屋裕二 (九州大)

- (5) 高層建築物の外壁に作用する変動風圧の性状について

藤井邦雄, ○上田 宏, 金子俊幸 (清水建設)

14:20~14:30 休憩

14:30~16:30 司会 川村純夫 (大阪市立大学)

(C) 風圧および空気力

- (6) 風速が急変する場合の物体に作用する空気力
白石成人, ○松本 勝, 北川雅章 (京成大)

- (7) 直列2本円柱の下流側円柱の静的空力特性

○岡島 厚, 杉谷賢一郎 (九州大)

- (8) 渦点法を用いた構造物まわりの流れ解析 (橋梁まわりの流れ)

○稲室隆二, 斎藤 通, 足立武司 (三菱重工)

- (9) 正方形屋根面に作用する風圧力に関する風洞実験

○本郷 剛, 吉田正邦 (鹿島建設)

- (10) 大型RC煙突に作用する風圧力と煙突振動

○真田早敏, 中村 修, 吉田正邦 (鹿島建設)

坪倉 久, 高野秀男 (東京電力)

- (11) 大型鋼管鉄塔の風力係数に関する研究

○松永 稔 (日本鉄塔), 今泉宏道, 川崎洋吾 (九州電力), 岡島 厚, 中村泰治 (九州大),

足立一雄 (日本鉄塔)

- (12) UHV送電用鉄塔の動的耐風性に関する一考察 (風洞実験による動的空力特性調査)

山岸啓利, 前川一夫 (東京電力), 松本竹二,

○渡部洋八郎 (三菱重工)

16:30~16:40 休憩

16:40~17:30 特別講演 パノフスキー博士

[中止の場合は, 懇親会を繰り上げ開催]

第2日 12月10日 (金)

9:00~10:45 司会 宮田利雄 (横浜国立大学)

- (d) 耐風設計法 (設計風速および風荷重を含む)

- (1) 台風に基づく年最大風速の極値分布の特性について——確率モデルによる考察——

牧野 稔, ○渡壁守正 (九州大)

- (2) 強風の成因別極値解析とその考察

宮田利雄, 斎藤善昭, ○籠田 彰 (横浜国大)

- (3) 動的応答を考慮した風荷重の確率統計的評価

神田 順 (東大)

- (4) 箱桁断面の空力不安定振動の制振対策と非定常圧力特性

宮崎正男 (住友重工)

- (5) 吊橋主塔架設時の対風制振策

○山口宏樹 (埼玉大), 伊藤 学 (東大), 藤井康盛 (新日本製鉄)

- (6) 渦励振に及ぼす断面形状の影響と許容振幅に関する研究

白石成人, 松本 勝, ○真下英人, 長尾丈明, 本田明弘 (京成大)

10:45~10:55 休憩

10:55~11:50 司会 坂本雄吉 (電力中央研究所)

- (b) 環境と自然風

- (1) 高架橋周辺の風

○塩谷正雄, 岩谷祥美 (日大)

- (2) 気温の影響を考慮した風環境評価尺度に関する研究

村上周三, ○森川泰成 (東大)

- (3) 人間に対する戸外風の熱的影響に関する研究

村上周三, ○出口清孝 (東大)

11:50~12:50 休憩・昼食

12:50~15:10 司会 成田信之 (建設省土木研究所)

- (e) 風による構造物の応答

- (1) 長方形角柱の渦励振現象

小林紘士 (立命館大)

- (2) 長方形のたわみ渦励振時の剝離流に対する初期迎角の支配効果

○山田 均, 宮田利雄, 山下幸俊 (横浜国大)

- (3) 充腹桁断面の空力特性に関する実験的考察

○井上浩男, 荒川 孝, 池内昌弘 (三井造船)

- (4) 長大連続桁橋の対風応答特性について
成田信之, ○山本邦夫, 佐藤弘史 (木土研究所)
- (5) 直列柱状構造物の空力特性に関する基礎的研究
白石成人, 松本 勝, ○白土博通, 佐川信之
(京成大)
- (6) 変動風中における塔状構造物のギャロッピング
に関する一考察
○岡南博夫 (大阪府立高専), 白石成人, 松本
勝 (京成大)
- (7) 橋梁断面の後縁形状と耐風特性
○久保喜延 (九州工大), 邑本興正 (清水建設),
宮地真一 (九州工大)
- (8) トラス補剛吊橋の架設時および完成時の耐風応
答
香川裕次 (本四連絡橋公団), ○植田利夫 (日
立造船), 北島彰夫 (川田工業), 北原俊男 (住
友重工), 桜井 孝 (東京鉄骨橋梁製作所)
- 15:10~15:20 休 憩
- 15:20~16:45 司会 島田 潔 (日本電炉)
- (e) 風による構造物の応答
- (9) 橋梁断面のガスト応答に関する基礎的研究
○吉村 健 (九州産業大), 中村泰治 (九州大),
石田良三 (総合技術コンサルタント), 荒牧
信介 (九州産業大)
- (10) 通信用鉄塔の風による振動の観測
松下一郎, 赤木久真, ○平松和嗣 (電電公社)
- (11) UHV 送電用鉄塔の動的耐風性に関する一考察
(応答解析)
山岸啓利, 前川一夫 (東京電力),
○山下正弘, 高橋勝明 (三菱重工)
- (12) 押え材を持つ一方向吊屋根の強風応答性状につ
いて
松本武雄 (金沢工大)
- (13) 吊屋根の風による動的挙動
○植松 康, 内山和夫, 山田大彦 (東北大)
- 16:45~16:55 閉会の辞 第8回風工学シンポジウム幹
事学協会 石崎潑雄 (日本風工学会)

「朝日賞」受賞候補者の推薦募集

昭和57年度「朝日賞」受賞候補者推薦募集が朝日新聞社よりきています。

朝日賞は、昭和49年度まで、文化・社会奉仕・体育の3部門に分かれていましたが、50年度からこれを一本化して、学術・芸術・科学技術・社会福祉・体育、その他あらゆる分野を選考の対象とし、各分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化・社会の発展と向上に多大の貢献をした個人または団体に贈ることになりました。

今年度は原則として、昭和57年1月1日から同12月31日までに完成または完成予定の業績を対象としますが、長年にわたる業績にも贈ることができます。また賞は、

正賞を賞牌(はい)とし、別に副賞(賞金=1件につき百万円)を贈ります。受賞者と業績は、昭和58年初めの朝日新聞紙上で発表し、同1月中旬に贈呈式を行いません。

応募者は、9月末日までに下記担当者までお申し込み下さい。

記

〒100 千代田区大手町1-3-4 気象庁内
東京管区气象台
竹内清秀
電話 03-212-8341 (内) 419